

年齢	20	歳	性別	男	○女	初診	1968.5	作成日	2019.12.1
主 訴	哮喘 (P.717) 陳発性の呼吸困難があり、反復発作が4年余り続いていたが、最近2週間前から感冒に罹り症状が重くなった。								
病 史	患者は1964年初春より、風寒感冒を患ったことにより咳嗽を發したのが治癒せず、次第に哮喘を發症した。哮喘の発作時毎に、即、西洋医の診治を受けたが、対症治療方で緩解していた。最近2週間前から感冒に罹り症状が重くなったが、薬物治療に過敏になってしまい、激素類の薬物の長期応用で副作用が顕かに出現するようになったので、我が院に来て鍼灸治療を要求した。								
四診所見 (検査)	【望診・聞診・問診・切診】 ①急性の苦痛の表情 ②呼吸困難 ③張口抬肩 ④不能平臥 ⑤喉中痰鳴 ⑥吐白色泡沫痰 ⑦面色不榮								
舌 診	⑭舌質：淡 ⑮舌苔：薄白								
脉 診	⑯脉：浮緊								
病位弁証	【五臟：肝・心・脾・肺・腎】【六腑：胆・小腸・胃・大腸・膀胱】【奇恒之腑：腦・隋・骨・脉・女子胞・命門・精室】								
八綱弁証	【表証・裏証・半表半裏証】【寒証・熱証】【虚証・実証】【陰証・陽証】								
病性弁証	【氣病弁証】氣虚・氣陷・氣滯・氣逆（肺氣・胃氣・肝氣）・氣随血脱・氣虚失血・氣血兩虚 【血病弁証】血虚・血熱・血瘀・氣滯血瘀 【津液不足弁証】 【津液病弁証】								

病因弁証	【六淫弁証】 風・寒・暑・湿・燥・火 【七情弁証】 喜・怒・憂・思・悲・恐・惊 【飲食勞倦弁証】 傷食・中毒・過勞・過逸
病 機	
証 名	
弁証分析	
主要な 弁証類型	【中医数学診断学 組】 【中医症状鑑別診断学】
治則治法	
配穴処方	
処方意義 (按語)	